

非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

金

【海外】

1. 価格推移

7月相場	高値	安値
ロンドン相場(\$/toz)	: 1,439.70 (19日)	1,387.90 (9日)
国内建値(円/g)	: 5,018 (19日)	4,874 (2日)
為替相場(円/\$、TTS)	: 108.55 (19日)	110.01 (10日)

7月の海外金相場は、1日にドル安から\$1,390.05/toz(トロイオンス)と高値圏でスタート、種々の材料が出揃う中で、主として米利下げ観測を背景にしたドル安から3日には前月以来の高値である\$1,425.10まで上昇した。その後、上旬から中旬にかけては、強弱材料を受けながら、\$1,400水準を挟んだ、一進一退の値動きとなった。強材料は米国の利下げ観測に伴うドル安、上場投資信託(ETF)が保有する金の残高が6年ぶりの高水準だったこと、弱材料は好調な米経済指標による米利下げ観測の後退、またそれに伴うドル高などであった。ところが、米連邦準備理事会(FRB)高官による発言をきっかけに、今後金融緩和が一段と加速するとの思惑から金への買いが勢いづいたことで急伸、19日には\$1,439.70と2013年5月以来約6年2か月ぶりの高値をつけた。イランの無人偵察機を米国が撃墜したとの報道で、地政学リスクを意識した買いも相場を押し上げた。週明けの22日以降は、強材料が市場に残っていたものの、利益確定売りに押され、やや下落した。それでも、下旬にかけては米利下げ観測や米国・イラン対立で買われやすい状況に変化がなく、\$1,425水準前後で堅調推移した。31日には米利下げ観測から\$1,427.55をつけて越月した。

2. 為替相場推移

7月の為替相場は、1日に\$1=109.25円(TTS相場、以下同じ)とドルが戻してスタート、上旬では景気減速に伴い世界的に中央銀行の金融緩和姿勢が強まるとの見方から日米金利差の縮小を見込んだ円買い・ドル売りが優勢となり、3日から7月第1週週末にかけて円高基調を辿った。ところが、第2週に入ると、市場予想を上回る米経済指標を受けて過度な米利下げ観測が後退し、円売り・ドル買いが先行したため円は反落、10日には\$1=110.01円をつけ、ほぼ1か月半ぶりの円安・ドル高水準となった。ただ、10日にパウエル米連邦準備理事会(FRB)議長の議会証言を受

け、米利下げ観測が強まったことでドル売りが増え、その結果、円の下落にブレーキがかかり、週末から第 3 週にかけて、円は再び上昇基調を辿り始めた。第 4 週から月末にかけても、基調は円高だったものの、FRB の動きや日米の株価をにらんでややドルが戻す場面も見られた。31 日には米利下げ観測からやや円高基調だったものの、予期したほどの動きは見せず、\$1=109.64 円をつけて越月した。

7 月の円の為替レートは€1=124 円水準から€1=122 円水準へ変化した。とくに下旬で欧州中央銀行 (ECB) の追加の金融緩和観測が市場に広がったことで、円高基調を辿った。

【国内】

1. 建値推移

7 月の国内金山元建値は 1 日に 4,882 円/g(グラム)でスタート、翌 2 日に 4,874 円と月間最安値を記録すると、その後はほぼ一本調子で上昇し、19 日には 5,018 円と月間最高値を記録するとともに 2013 年(平成 25 年)4 月以来 6 年 3 か月ぶりの高値水準となった。週明けの 22 日以降は、やや下げる場面が見られたものの、4,900 円台後半をしっかりとキープ、31 日には 5,016 円と再び 5,000 円台に復帰して越月した。

2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2019 年 6 月分=令和元年 6 月分)

生産 : 8,644 kg (前月比 21.3%減、前年比 18.4%減)
出荷 : 9,714 kg (前月比 8.5%減、前年比 16.7%減)
在庫 : 4,225 kg (前月比 20.2%減、前年比 5.8%減)

(生産、出荷、在庫の出典は経産省生産動態統計調査)

6 月の生産は前月比、前年同月比とも減。前年同月比は 5 か月連続のマイナス。出荷は価格の上昇基調から前月比大幅減。前年同月比も生産と同じく、5 か月連続の減。在庫は出荷量が生産量を上回ったため、前月比、前年同月比とも減。前年同月比は 5 か月連続の減。在庫は低下気味で推移中。

銅

【海外】

2019 年 7 月の LME 銅相場は米国の利下げ観測に下支えられ前月の \$5,800/t 圏から \$5,900 圏へと水準をやや押し上げた。

米連邦準備制度理事会 (FRB) のパウエル議長は 10 日の議会証言で、米中貿易摩擦による企業投資の減速や物価の停滞に懸念を示し、7 月末の連邦公開市場委

員会(FOMC)で利下げに転じる可能性を示唆した。これを受け、米ダウ工業株平均は11日に初の27,000ドル台に乗せ、15日にかけて3営業日連続で史上最高値を更新した。また、米国の第2四半期GDP成長率は前期比2.1%増と前期の3.1%増からは鈍化したが、市場の予想ほど減速しなかった。個人消費が急増し、輸出減少や在庫投資の減速による影響を緩和した。FRBは31日、政策金利を0.25%引き下げ2~2.25%/年とした。米中貿易戦争や世界経済の減速で不透明感が強まるなか、景気悪化リスクを警戒し、2015年12月に開始した利上げ路線を転換した。利下げはリーマンショック後の2008年12月以来。ただ、パウエル議長は大幅な追加利下げには慎重な姿勢を示した。

米中貿易戦争をめぐるのは、前月末のG20サミットにおける米中首脳会談で貿易協定を再開することが合意された。また、トランプ米大統領は「米ハイテク企業の要望を受け、安全保障に影響しない製品をファーウェイ(華為技術)が買うのは許す」と発言した。ところが、トランプ大統領は30日、ツイッター上で中国が米国の農産物の輸入を始める気配はないと批判した。

中国経済は第2四半期GDP成長率が前年同期比6.2%増と前期の6.4%増から鈍化し、1992年第1四半期以来の低い伸びとなった。また、6月の財新製造業景気指数(PMI)は49.4と1月以来の低水準となった。

英国のEU離脱(ブレグジット)をめぐるのは、23日の保守党党首選挙で離脱強硬派のジョンソン前ロンドン市長が指名され市場は失望した。

供給障害要因としては、コデルコはチュキカマタ銅製錬所(チリ)の正常操業復帰時期を再び延期した。自溶炉、第1硫酸プラントなどいくつかの設備は正常に操業中だが、全設備が正常操業に復帰するのは第3四半期にずれ込む見通し。今年4月時点では、遅くとも年央までには完全復旧する見通しであった。同製錬所は昨年12月の環境基準強化に適合すべく改修工事を実施中。

ユーラシアンリソーシズグループ(ERG)はチャンビシ・コバルト工場(ザンビア)の金属コバルト生産を6月初めに部分再開したことを確認した。銅及びコバルト精鉱に輸入関税(5%)が導入されたため、2月から操業を停止していた。原料は同社のメタルコローン・テイリング処理(RTR)プロジェクト(コンゴ民主共和国)で生産される水酸化コバルト。

需給動向については、国際銅研究会によれば、2019年1~4月の世界の銅鉱石生産は前年同期比0.9%減の6,544千t、地金生産は7,839千tで横ばい、消費は1.1%増の7,993千t、地金需給バランスは▲64千tから▲155千tへと供給不足幅がやや拡大した。報告在庫は8.1%減の1,339千t、在庫/消費比率は3.3週間から2.7週間へと低水準で推移している。

鉱石生産の内訳は精鉱が0.5%、SXEWは2.5%減少した。国別にはチリが鉱石品位低下を主因に3.2%減少、インドネシアはグラスベルグ、バツーヒジャウ鉱山の採

掘鉱体の移行に伴う一時的な減産により 50%減少した。コンゴ民主共和国(DRC)、ザンビアは休止鉱山の再開が一部鉱山の減産に相殺されて 2.8%の増加にとどまった。ペルー、オーストラリア、中国、モンゴルは鉱石品位の改善や前年の供給障害による減産の反動で増加した。地域別には、アフリカが 3%、北米は 2%、オセアニアは 6%増加したが、アジアは 4%、ラテンアメリカは 1.5%、ヨーロッパは 3%減少した。鉱山稼働率は 81.1%から 80.1%へと横ばい。

地金生産の内訳は一次生産が 0.2%減少、二次生産は 0.5%増加した。国別には、チリがチュキカマタ製錬所の環境改善工事に伴う操業停止により 33%減少した。インドはツーチコリン製錬所が 2018 年 4 月から操業を停止していることにより 33%減少。ザンビアは電力供給途絶、製錬所の停電に加え、2019 年 1 月 1 日付で銅精鉱に輸入関税(5%)が導入されたことなどから 23%減少した。その他主要生産国ではドイツ、日本、ペルー、米国が定修閉鎖のため減少。中国は能力増強を背景に増加。オーストラリア、ブラジル、イラン、ポーランドは前年の供給障害による減産の反動から増加した。地域別には、アジアが 3%、オセアニアは 13%増加したが、ヨーロッパは横ばい、アフリカは 5%、アメリカは 9%減少した。精製工場の稼働率は 86.4%から 84.0%に低下した。

中国の見掛け消費(未報告在庫の増減を除外)は 4%増加した。その他主要消費国のなかではインドが増加、日本は横ばい、EU、米国は減少した。中国を除く世界は 2%減少した。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

6/26 690 7/1 700 7/3 680 7/11 690

2. 銅地金生産・出荷・生産者在庫(2019 年 6 月分=令和元年 6 月分)

生産 : 129,600t (前月比 2.7%減、前年比 1.8%減)

出荷 : 141,400t (前月比 18.7%増、前年比 1.9%減)

在庫 : 106,300t (前月比 9.6%減、前年比 9.9%増)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

2019(令和元)年 6 月の銅地金生産は前月比 2.7%減、前年同月比 1.8%減の 129.6 千tと、それぞれ 2 か月ぶりの減少と 5 か月連続の減少となった。出荷は前月比 18.7%増、前年比 1.9%減の 141.4 千tで、それぞれ 3 か月ぶりの増加と 4 か月連続の減少。内訳は内販が 84.8 千tで前月比は 11.9%増と連休の反動増、前年比は 1.5%増で、それぞれ 3 か月ぶりとは 2 か月ぶりの増加。輸出は前月比 30.7%増、前年比 6.6%減の 56.6 千tで、それぞれ 2 か月連続の増加と 4 か月連続の減少。内販のうち電線向けは前年比 5.6%増の 54.4 千tで 2 か月ぶりの増加。伸銅品向けは 2.9%

減の 28.4 千tで 3 か月連続の減少。在庫は前月比 9.6%減、前年比 9.9%増の 106.3 千tと、それぞれ 3 か月ぶりの減少と 2 か月連続の増加となった。

3. 需要部門別動向

日本電線工業会によれば、2019(令和元)年 6 月の銅電線出荷は前月比 0.8%増、前年同月比 3.6%減の 56.9 千t(推定)と前年比は 3 か月ぶりの減少となった。うち内需は前年比 2.4%減の 55.6 千tで 3 か月ぶりの減少、輸出は 37.4%減の 1.3 千tで 3 か月連続の減少。内需の部門別には、自動車と建設電販が 9 か月連続、通信は 3 か月連続の増加。電気機械は 10 か月連続、その他内需は 7 か月連続、電力は 3 か月ぶりの減少となった。

日本伸銅協会によれば、2019(令和元)年 6 月の伸銅品生産は前月比 5.2%増、前年同月比 7.5%減の 65.1 千t(速報)と 7 か月連続の前年比減。うち内需向けは前年比 6.2%減の 55.1 千tで 6 か月連続の減少、輸出は 14.0%減の 10.0 千tで 8 か月連続の減少。品種別には、半導体、コネクタ、自動車端子向けの銅条が 5 か月連続、エアコン向けの銅管は 4 か月連続、自動車端子向けの黄銅条は 5 か月連続の減少、コネクタ向けの青銅板条は 11 か月連続の減少となった。

鉛

【海外】

2019 年 7 月の LME 鉛相場は米国の利下げ観測に下支えられ月後半は 4 月以来となる \$2,000 台を回復したが、月末には在庫急増で反落した。

米連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長は 10 日の議会証言で、米中貿易摩擦による企業投資の減速や物価の停滞に懸念を示し、7 月末の連邦公開市場委員会(FOMC)で利下げに転じる可能性を示唆した。これを受け、米ダウ工業株平均は 11 日に初の 27,000 ドル台に乗せ、15 日にかけて 3 営業日連続で史上最高値を更新した。また、米国の第 2 四半期 GDP 成長率は前期比 2.1%増と前期の 3.1%増からは鈍化したが、市場の予想ほど減速しなかった。FRB は 31 日、政策金利を 0.25%引き下げ 2~2.25%/年とした。米中貿易戦争や世界経済の減速で不透明感が強まるなか、景気悪化リスクを警戒し、2015 年 12 月に開始した利上げ路線を転換した。利下げはリーマンショック後の 2008 年 12 月以来。ただ、パウエル議長は大幅な追加利下げには慎重な姿勢を示した。

米中貿易戦争をめぐるのは、前月末の G20 サミットにおける米中首脳会談で貿易協定を再開することが合意された。また、トランプ米大統領は米ハイテク企業の要望を受けてファーウェイ(華為技術)への米企業の輸出を認めた。ところが、30 日には

中国が米国の農産物の輸入を始める気配はないと批判した。

中国経済は第2四半期 GDP 成長率が前年同期比 6.2%増と前期の 6.4%増から鈍化し、1992 年第 1 四半期以来の低い伸びとなった。また、6 月の財新製造業景気指数 (PMI) は 49.4 と 1 月以来の低水準となった。

英国の EU 離脱 (ブレグジット) をめぐっては、23 日の保守党党首選挙で離脱強硬派のジョンソン前ロンドン市長が示され市場は失望した。

鉛独自の要因としては、LME 鉛在庫が 7 月 29 日の 55,475t から 31 日にかけて 79,050t へと急増した。とくに高雄倉庫 (台湾) 在庫は 3,250t から 17,925t に増加した。在庫の一部は中国のトレーダーがアービトラージを利用してヨーロッパから引き出し、その後、ワラントが転売されて高雄倉庫に持ち込まれた。この間、ロッテルダム倉庫在庫も 7,075t 増加した。鉛価格はポートピリー製錬所の生産停止を契機に上昇したが、その後は 8 月渡しのショートポジション筋が大量の在庫を持ち込んだ。

供給障害要因としては、ニルスターは 7 月 9 日、ポートピリー鉛製錬所 (豪) の精製鉛出荷に発動している不可抗力条項の適用期間を 7 月最終週まで延長すると発表した。TSL 炉、溶鋳炉ともに 7 月末再開見通し。同製錬所は 5 月 28 日に停電のため溶鋳炉の操業を停止、6 月 6 日に不可抗力条項を発動した。当初、6 月末とされた再開時期は 7 月第 2 週、さらに 7 月末へと延期された。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2019 年 1~5 月の世界の鉛鋳石生産は前年同期比 1.3%増の 1,936 千t、地金生産は 2.6%増の 4,833 千t、消費は 2.8%増の 4,875 千t、地金需給バランスは前年同期の▲34 千tから▲42 千tへとやや不足気味に推移している。5 月末の地金の報告在庫は前年同月比 17.7%減の 363 千t、在庫/消費比率は 2.0 週間から 1.7 週間に低下した。

鋳石生産はアメリカが 7.0%、ヨーロッパは 4.9%増加、アジアは横ばい、オセアニアは 6.2%、アフリカは 4.5%減少した。国別には、カナダ、インド、メキシコ、ペルー、スウェーデンが増加、オーストラリア、中国は減少した。地金生産はアジアが 2.8%、アメリカは 2.4%、オセアニアは 21.2%、アフリカは 5.8%増加、ヨーロッパは横ばいとなった。国別には、中国、インド、韓国が増加、ヨーロッパ、日本、米国は横ばい。消費はアジアが 6.2%、アフリカ、オセアニアは横ばい、アメリカは 2.7%、ヨーロッパは 2.8%減少した。国別には、中国、インド、台湾が増加、ヨーロッパ、韓国、米国は減少した。

中国は鋳石生産が 1.3%減の 851 千t、鉛精鋳のネット輸入は 31.3%増の 331 千t、地金生産は 2.2%増の 1,974 千t、地金の輸出入は 16 千t のネット輸出から 78 千t のネット輸入に転じた。この結果、見掛け消費 (生産 + 輸入 - 輸出 ± 上海取引所在庫) は 6.6%増の 2,037 千tとなった。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

6/3 260 6/12 272 7/1 269 7/12 272 7/23 282 8/1 278

7月 は LME 鉛相場が月初から月末にかけて上昇基調を辿ったことで、鉛建値は 282 千円/t まで上方修正された。

2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2019年6月分=令和元年6月分)

生産 : 16,015t (前月比 5.3%減、前年比 9.0%減)

出荷 : 16,271t (前月比 9.8%増、前年比 1.1%増)

在庫 : 14,548t (前月比 2.2%減、前年比 16.6%減)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

6月の生産は細倉製錬所の定修もあり、前月比、前年同月比とも減。低調な生産が続く。出荷は連休明けから前月比増、前年同月比も4か月連続でプラスを維持。銅鉛亜鉛の中で唯一堅調さを維持。在庫は出荷増から前月比減、前年同月比も2か月連続の減。

3. 需要部門動向

5月の自動車生産台数は前年同月比9.3%増の792,919台となり、2か月連続で前年同月を上回った。乗用車は前年同月比2か月連続のプラス、トラックも同2か月連続のプラス、バスも同2か月連続のプラスとなり、すべての車種が前月に引き続き上昇傾向を見せた。

6月の自動車輸出台数は前年同月比0.8%増の415,389台となり、2か月連続で前年同月を上回った。

一方、5月の二輪車生産台数は前年同月比21.0%減の41,032台と6か月連続で前年同月を下回った。

(一社)電池工業会の調査によると、5月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、輸出用を併せた総合計で1,656千個(前年同月比±0%)と横ばい、自動車用以外の鉛蓄電池は560千個(同2%減)と10か月連続で減少した。その結果、鉛蓄電池の出荷はトータルで2,216千個(同1%減)と2か月ぶりに低下した。

鉛関連製品生産統計

		4月	5月
自動車	数量(台)	814,351	792,919
	前年同月比(%)	104.7	109.3
自動車用鉛蓄電池	数量(鉛量t)	15,744	14,542
	前年同月比(%)	95.3	100.3

(出所: (一社)日本自動車工業会, 経済産業省生産動態統計調査)

亜鉛

【海外】

2019年7月のLME亜鉛相場は前月比一段安の\$2,400圏を低迷推移した。他のベースメタルが米国の利下げ観測に下支えられやや回復したが、亜鉛は前月までのスクウィーズが沈静化し反落した。

米国経済はパウエル連邦準備制度理事会(FRB)の議長が10日の議会証言で米中貿易摩擦による企業投資の減速や物価の停滞に懸念を示し、7月末の連邦公開市場委員会(FOMC)で利下げに転じる可能性を示唆した。これを受け、米ダウ工業株平均は11日に初の27,000ドル台に乗せ、15日にかけて3営業日連続で史上最高値を更新した。また、米国の第2四半期GDP成長率は前期比2.1%増と前期の3.1%増からは鈍化したが、市場の予想ほど減速しなかった。FRBは31日、政策金利を0.25%引き下げ2~2.25%/年とした。米中貿易戦争や世界経済の減速で不透明感が強まるなか、景気悪化リスクを警戒し、2015年12月に開始した利上げ路線を転換した。利下げはリーマンショック後の2008年12月以来。ただ、パウエル議長は大幅な追加利下げには慎重な姿勢を示した。

米中貿易戦争をめぐっては、前月末のG20サミットにおける米中首脳会談で貿易協定を再開することが合意された。また、トランプ米大統領は米ハイテク企業の要望を受けてファーウェイ(華為技術)への米企業の輸出を認めた。ところが、30日には中国が米国の農産物の輸入を始める気配はないと批判した。

中国経済は第2四半期GDP成長率が前年同期比6.2%増と前期の6.4%増から鈍化し、1992年第1四半期以来の低い伸びとなった。また、6月の財新製造業景気指数(PMI)は49.4と1月以来の低水準となった。

英国のEU離脱(ブレグジット)をめぐっては、23日の保守党党首選挙で離脱強硬派のジョンソン前ロンドン市長が示され市場は失望した。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2019年1~5月の世界の亜鉛鉱石生産は前年同期比1.4%増の5,273千t、地金生産は1.0%減の5,392千t、消費は5,515千tで横ばい、地金需給バランスは前年同期の▲103千tから▲123千tへとやや供給不足気味に推移している。5月末の地金の報告在庫は前年同月比17.2%減の914千t、在庫/消費比率は4.2週間から3.4週間に低下した。

鉱石生産はオセアニアが37.9%、ヨーロッパは3.1%、アフリカは29.2%増加、アジアは3.0%、アメリカは4.1%減少した。国別には、オーストラリア、ナミビア、南アフリカ、スウェーデンが増加、中国、インド、ペルー、トルコ、米国は減少した。地金生産

はアメリカが 3.5%、アフリカは 22.2%増加、アジアは 1.9%、ヨーロッパは 1.4%、オセアニアは 2.1%減少した。国別には、メキシコ、ペルーが増加、カナダ、中国、インド、ロシアは減少した。消費はアメリカが 3.5%、アフリカは 10.0%増加、アジアは 1.1%、ヨーロッパは 2.0%、オセアニアは 9.2%減少した。国別には、ブラジル、インド、韓国、南アフリカ、米国が増加、中国、ヨーロッパは減少した。

中国は鉱石生産が 2.5%減の 1,677 千t、亜鉛精鉱のネット輸入は 7.1%減の 602 千t、地金生産は 1.7%減の 2,269 千t、地金のネット輸入は 19.8%増の 278 千t、この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫/国家備蓄)は 2.3%減の 2,504 千tとなった。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

6/3	340	6/6	328	6/11	334	6/17	331	7/4	319	7/9	307
7/16	313	7/22	310	8/1	316						

7月 は LME 亜鉛相場が月中ほぼ横ばい推移したことで、亜鉛建値も 300~320 千円/t 内での小動きに終始した。

2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2019年6月分=令和元年6月分)

生産 : 45,007t (前月比 1.5%減、前年比 3.5%増)
 出荷 : 42,135t (前月比 8.8%増、前年比 1.5%減)
 在庫 : 73,023t (前月比 4.1%増、前年比 4.2%減)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

6月の生産は前月比減だが、前年同月比は4か月ぶりの増。7月は飯島、安中両製錬所の定修により 30 千t 台の生産へ減少。出荷は内販増から前月比増だが、前年同月比は4か月連続のマイナス。この数か月間、高炉に元気がない状況は変わらず。反対に元気の良い需要分野も見られず。在庫は3か月連続の前月比増だが、前年同月比は生産低調から9か月連続の減。

3. 需要部門動向

6月の鉱工業生産指数は前月比 3.6%減、前年同月比 4.1%減の 101.1(季節調整済、2015年=100基準、速報値、以下同じ)となった。前月比は3か月ぶりの低下、前年同月比も5か月連続の低下。2018年1月(4.2%低下)以来の下げ幅。経産省は生産の基調を「一進一退」に据え置いた。4~6月期は前期比 0.5%上昇の 102.9。

業種別では、15業種中13業種で低下した。5月の上昇を受けた反動減で自動車工業や電気・情報通信機械工業が伸び悩んだ。

6月の出荷指数は前月比 3.3%減の 100.6 と 3か月ぶりに低下、前年同月比も

4.2%減と7か月連続で低下した。

一方、在庫指数は前月比0.3%増の104.6、在庫率指数は前月比2.8%増の109.4となった。

大企業の生産見通しを示す製造工業生産予測指数では、7月が前月比2.7%、8月は同0.6%とともに上昇を見込んでいる。

5月の亜鉛めっき鋼板生産は前年同月比5か月連続の減となり、低迷状態から脱出できず。

5月の伸銅品生産量は61,885t(確報値、以下同じ、対前年同月比▲9.0%)(対前月比▲4.4%)、対前年同月比は6か月連続のマイナス(3月▲7.1%、4月▲7.3%)。全14品種中、対前年比プラスは1品種。内需向け生産:52,308t、5か月連続の対前年比マイナス(▲7.5%)。輸出向け生産:9,577t、7か月連続の対前年比マイナス(▲16.3%)。

黄銅製品では、黄銅条が8,355t(対前年比▲1.1%)、4か月連続の対前年比マイナス。黄銅棒は14,565t、5か月連続の対前年比マイナス(対前年比▲8.4%)。総じて低調。住宅向けのガス機器、水栓金具と設備関連については低調な状態が継続している。

亜鉛関連製品生産統計

		4月	5月
亜鉛めっき鋼板	数量(千t)	800	837
	前年同月比(%)	91.2	92.1
黄銅製品	数量(t)	26,976	25,988
	前年同月比(%)	93.8	92.0
亜鉛ダイカスト	数量(kg)	1,477,863	1,444,686
	前年同月比(%)	89.0	96.5
亜鉛華	数量(t)	5,061	5,102
	前年同月比(%)	103.4	104.7

(出所:(一社)日本鉄鋼連盟、経済産業省生産動態統計調査)